

痩せているワカサギ

今年の霞ヶ浦北浦のワカサギは、7月の漁期前に行われた試験操業の時に、どちらも小型で痩せていたことは既にご承知のとおりです。

特に、北浦でその傾向が強かったのですが、これは北浦でのワカサギ漁が近年にない好漁で、ワカサギの個体数が多かったために、ワカサギ1匹当たりの餌の量が少なく、生育が悪かったのであろうと考えました。

一方、霞ヶ浦のワカサギについては、6月のヌマチチブやアシシロハゼ（ハゼ類の漁獲量はヌマチチブとウキゴリの2種類で殆どを占めており、他にアシシロハゼ、ジュズカケハゼなどがある。）についても、他の年に比較して痩せていたことから、イサザアミなどの餌が全体的に不足していた結果ではないかと推測されました。

第1図に平成4年から7年について、霞ヶ浦と北浦のワカサギの肥満度（痩せ具合を示す指数で、同じ魚で似たような生育段階同士で比較した場合、この値が小さいほど痩せていることを意味しています。）の推移を示しました。

湖の水温が下がってくる9月になると、一般にワカサギの生育は良くなり、次第に太ってくるのですが、今年は特に、霞ヶ浦で痩せているのが目立っています。

ところでワカサギ以外の魚について、夏以降の生育状態がどうなっているのか調べてみました。

ヌマチチブは6月には痩せていましたが、この親魚から生まれた新仔については、霞ヶ浦北浦とも順調に生育しています。

また、シラウオについてもヌマチチブ同様に、霞ヶ浦北浦ともに生育状態は良いという結果になりました。

それではなぜワカサギだけが生育が悪く、痩せているのでしょうか。

ワカサギは7月の解禁日に小さいと、その後の生育もあまりよくなく小型で推移し、7月に大きいと大型のワカサギになるという傾向がみられています。

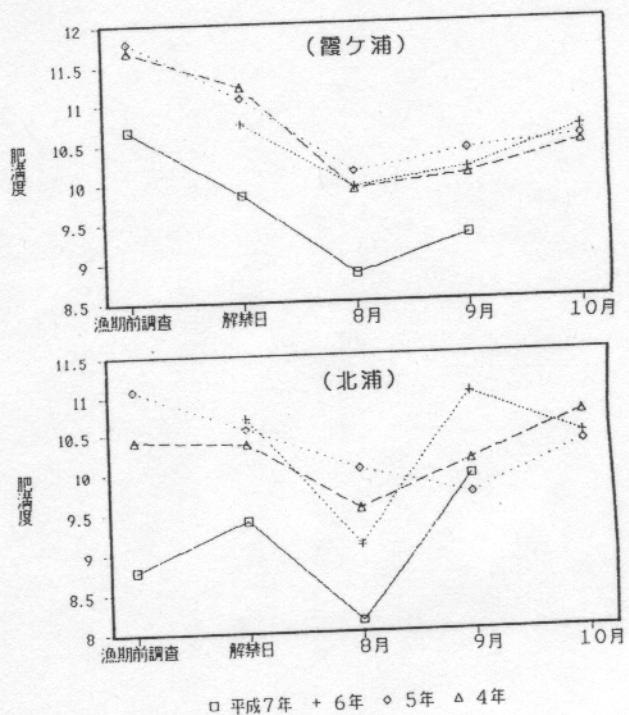
また、ワカサギは夏の高水温には弱く、第1図にみられるように、湖の水温が最も高くなる8月には、毎年ワカサギの肥満度は落ち、痩せたワカサギとなります。

今年の夏は昨年同様に大変な暑さで、湖の8月の表面平均水温は約30℃になりました。

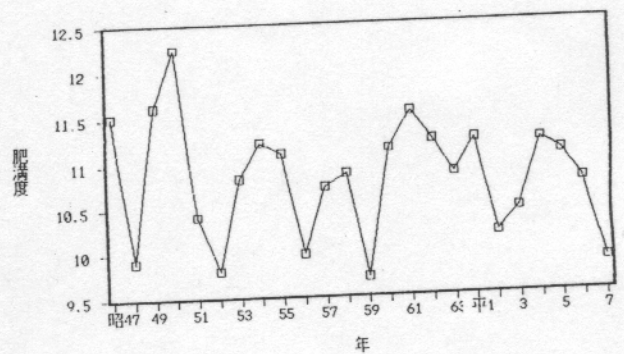
このように7月のワカサギが小さかったこと、夏の猛暑で更に生育に大きな影響を受けたことなどから、9月になってもなお生育の回復が遅れているものと思われる。

しかし、10月に入って平年並みの肥満度に近づいているようです。

なお、7月の解禁日に今年のように痩せていた例は、第2図に示したように、過去にも何度かみられているようです。



第1図 ワカサギの肥満度（痩せ具合）の推移



第2図 解禁日におけるワカサギ肥満度の推移（霞ヶ浦）